かお・人・interview

2024年8月23日

所長 インタビュー

国土交通省　九州地方整備局
佐賀河川事務所 所長

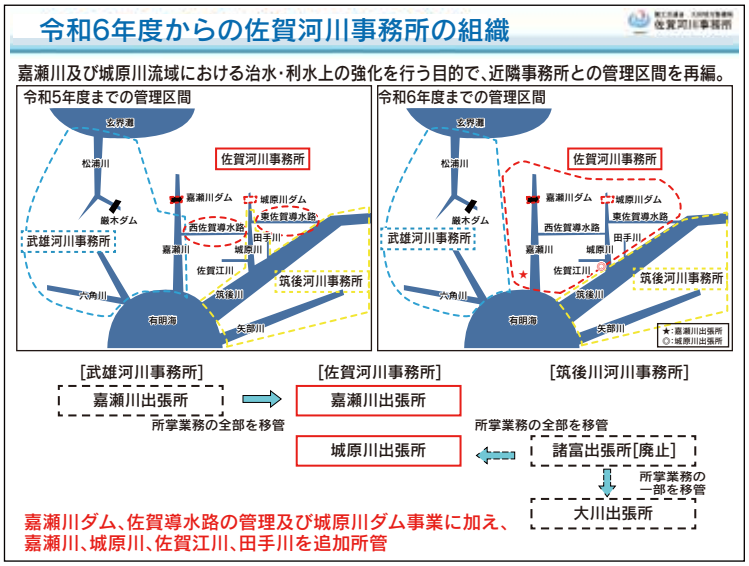
古賀 満氏

KOGA Mitsuru

佐賀河川事務所は嘉瀬川ダムと佐賀導水路の管理、城原川ダム事業の促進を担っていたが、今年度からは嘉瀬川や城原川など上流から下流までを所管することになった。長年水に悩まされてきた地域は、新たな管理体制に期待を寄せている。また、今年はダム湖が国スポ（国体）のカヌー競技に使われるなど地域づくりの貢献も目立つ。総合管理で地域の安全と発展にどう向き合っていくのか、古賀所長に話を伺う。

Q所長就任にあたっての抱負

令和2年度に佐賀河川事務所が開所し、5年目を迎えました。この間、嘉瀬川ダムの管理、佐賀導水の管理および城原川ダムの建設事業を担ってきましたが、今年度、令和6年度より、武雄河川事務所から嘉瀬川が、筑後川河川事務所からは筑後川支川城原川、田手川、佐賀江川が佐賀河川事務所の所管として組織改正されました。近年、全国的に気候変動による水災害の激甚化、頻発化しており、その一方では、渇水も発生しています。このような気象状況のなか大きな意味で、上流から下流まで水系として一貫した佐賀・東部地域の治水・利水を当事務所が担うことになり、地域の期待も高くなっていると感じています



▲令和6年度からの佐賀河川事務所の組織

近年連続して発表されている「大雨特別警報」や佐賀駅周辺をはじめとして、広範囲での浸水被害が発生している一方で、嘉瀬川では令和元・3・4年と小雨傾向から関係機関からなる渇水調整連絡会を開催している状況です。気候変動は、短時間強雨が増加するとともに、無降水日も増加するなど、雨の降り方が極端になることなどがいわれています。この佐賀において、古くから治水・利水ともに「水」に悩まされてきた地域であり、低平地などの地形・地域特性なども踏まえ、水災害からの被害の最小化、地域・経済などの混乱の最小化などを意識して、改めて、治水計画のあり方、既存施設（嘉瀬川ダ

○ 日出来橋水位観測所（平常時と洪水時の比較）

日出来橋地点（平常時）

日出来橋地点（最高水位5.54m）
【7/10 6時20分時点】

ム・佐賀導水）の最大限の活用、流域治水の取り組み（深化）などの検討を進めてまいりたいと考えています。

また、令和5年7月出水において、城原川では計画高水位（HWL）を約4時間超過する出水が発生しており、嘉瀬川及び城原川では年々、水災害のリスクは高まっています。

▲城原川ダムの説明

城原川ダム事業においては、昨年度、R6. 1.28に城原川ダム建設対策協議会と「城原川ダム建設事業に伴う損失補償基準協定書」を締結させていただきました。今年度より用地補償に向けて協議を進めてまいりますが、まずは、水没地域やその周辺の方々の一日でも早い生活再建ができるよう、事務所一丸となって地域に寄り添いながら、丁寧な説明を行い、用地補償等にご理解がいただけるよう取り組んでまいります。防災・減災に向けて城原川ダムの早期完成が図れるよう取り組むとともに、ダム事業に協力して「本当によかった」と思っていただけよう努めてまいります。

Q福岡県や佐賀との関わりや思い出

福岡県出身ですので、筑後川も含め、馴染みがある場所も多くあります。建設省（現国土交通省）に入省し、さまざまな経験をさせていただきましたが、思い出すのは約20年前に遠賀川河川事務所に係長で赴任したときです。福岡県内で赴任する初めての場所で緊張していたのを覚えています。当時は、平成15年の出水により飯塚市内で大規模な浸水被害が発生し、その治水対策を関係機関と連携して計画の策定や床上浸水対策特別事業の実施に携わっていました。また、河川整備基本方針や整備計画の策定も進めていたところでしたので、遠賀川の治水計画策定に日々励んでいました。

もうひとつ忘れられないのは、平成30年4月に筑後川河川事務所の九州北部豪雨復興出張所の初代出張所長として赴任したことです。平成29年7月に発生した九州北部豪雨では、筑後川右岸の朝倉市・日田市が土砂や流木を含む洪水に襲われ、多くの死者や行方不明者を出す未曾有の水災害が発生しました。特に被害が大きかった赤谷川では、福岡県に代わって国による権限代行で河川の災害復旧と直轄砂防事業に従事しました。赴任当初は、元の河川の流れがわからない状態や、降雨時に大量の土砂が流れ出てくる状況などを目の当たりにし、どこから復旧に着手するかを出張所職員と手探り状態で決めていました。しかし、「この地域にまた暮らしたい」「地域は必ず復興する」といった地域の強い想いに応えるため、復旧に必要なことを考えながら、復旧方針の議論や説明、工事の実施に取り組んだことは今でも忘れられません。これらは、私の経

験の中でも大きな財産となっています。

入省して30数年、福岡・熊本・長崎そして東京に勤務してきましたが、佐賀の事務所勤務は初めてとなります。整備局勤務の際には、嘉瀬川ダムや城原川ダム、佐賀導水の事業を担当していましたので、ダム事業に関しては主として携わっていました。今回、佐賀の河川改修事業等を担当するのは初めてですが、河川特性や地域特性などは整備局勤務の際に学んだことがあります。佐賀の地域・地形特性や現状の課題を踏まえ、これまでの知見を生かして、佐賀地域の治水・利水についてしっかり取り組むとともに、地域の文化・歴史、生業、まちづくりなども考慮した、河川空間や河川環境の保全・創出にも取り組んでまいります。

Q当事務所の紹介

令和6年度の組織改正によって、佐賀・東部地域の治水・利水を一体的担う事務所となりました。事務所体制としては、昨年度の事務所と嘉瀬川ダム管理支所に加え、嘉瀬川出張所、城原川出張所が加わり、67名となりました。組織も拡大し、佐賀導水・嘉瀬川ダムの管理、城原川ダム事業、嘉瀬川、城原川の一体管理の強化により、佐賀・東部地域にお住まいの方々の安全・安心した暮らしができるよう、事務所一体となり取り組んでいきます。そのためにも、「風通しのよい職場」など職場環境・雰囲気づくりに努め、各課の仕事、取り組みも知り、各課が協力・助け合える職場となり、そのことが、延いては仕事の達成感や喜びにもつながると感じています。

また、継続的な仕事であっても「なぜ」と自身の中で立ち止まって考えることができる職場づくりにも心がけていきます。その一環として、佐河（さが）弘どう館など、諸先輩方が築いてきた所内で行う学習会の継続や、外部講師（OBによる講話など）による学習会などにも取り組みたいと考えています。

Q今年度の事業概要

嘉瀬川や城原川の河川改修においては、堤防強化など河川改修を進めます。近年の洪水の状況等を踏まえた、両河川の今後の事業展開などの検討を実施します。佐賀導水や嘉瀬川ダムについても、近年の洪水を踏まえた効果検証や既存施設のさらなる有効活用の検討を行い、施設の適切な維持・管理に努めます。さらには、嘉瀬川ダムにおいては、地域活性化などの一環に資する環境整備を継続実施します。佐賀導水については、令和6年度にポンプ施設更新により効率化・信頼性向上等をはかるため「堰堤改良事業」を新規採択いただきました。今年度は、ポンプ施設の更新に向けた検討・設計などを行います。

城原川ダム事業については、ダム本体関係の調査・検討を進める一方で、一日でも早く生活再建ができるよう、用地補償に向けて地権者の皆様方へ丁寧な説明を進めてまいります。

Q地域との連携・協働について

城原川ダムについては、50年以上の長きに渡り、地域の方々、特に水没地域の方々にご不安・ご心労をおかけしていますことに、心よりお詫びを申し上げるとともに、一日でも早く生活再建が整うよう、地域に寄り添い、神崎市をはじめとする関係機関とも連携・協働し、用地補償を進めてまいりたいと考えています。

また、低平地である佐賀では、治水事業の加速とともに、流域治水の推進は必要不可欠であり、関係機関、地

▲嘉瀬川ダム

域の方々のご理解・ご協力のもと、流域治水を深化させていければと考えています。その深化する上で、河川管理者としても必要な治水対策の推進を図るなど協働した取り組みを進めたいと考えています。

▲SAGA2024　国スポ・全障スポのポスター

さらには、今年は「SAGA 2024国スポ・全障スポ」の開催を控えており、嘉瀬川ダム湖「富士しゃくなげ湖」ではローイング・カヌー（スプリント）のボート競技が開催されます。これまでも、嘉瀬川ダム利活用推進協議会により湖面利活用などの取り組みが図られていますが、国スポ・全障スポ後も更なる湖面利活用等が図られるよう、協議会をはじめとする地域の方々と連携し、観光・地域活性化に資する取り組み取りを進めたいと考えています。

▲ローイング・カヌー競技が行われる富士しゃくなげ湖

地域とのコミュニケーションを大切に、関係機関等とも連携・協働し、よりよい地域づくりの一躍を担ってまいりたいと考えています。

Q地域建設業への要望・メッセージ

地域の安全・安心した暮らしを支え、有事の際にも地域の守り手として対応を頂いていますことに地元建設業の方々には感謝しております。熊本赴任時代には、熊本地震に直面し、ご自身やそのご家族なども被災されている中、地域の為、地域の復旧・復興のために、事務所に駆けつけていただき、現地の調査や緊急復旧の対応、給水支援など地域の守り手としてご尽力を頂いていることが目に焼き付いています。

気候変動による水災害の激甚化・頻発化するなかで、地域建設業界の役割はさらに大きくなってくるものと考えています。地域の守り手として、地域技術の伝承者として、さらには、働き方改革や生産性向上など、担い手の確保の観点からもよりよい関係性の更なる構築が重要であり、事務所としても、その取り組みをしっかりと進めてまいります。

▲ガタ土除去作業

また、土木施設の役割や魅力および土木技術の魅力などを配信し、若い世代に興味を持ってもらうとともに、建設業に魅力を感じられ、就職に結び付けるような取り組みも、嘉瀬川ダムや佐賀導水といった既存施設なども活用し、地域の建設業の皆様と連携して進めていきたいと考えています。

Q趣味や健康法など

健康維持のために行っているのはウォーキングです。通勤も徒歩ですし、週末には1～2時間程度は歩いています。そのおかげで、大きな体重の変動もありません。今後も「歩く」ことを継続するつもりです。

仕事の上で心がけているのは、「一日一笑」です。仕事に限らず、困難な時ほど「笑う」というポジティブな行動は、物事を前向きに取り組む姿勢につながります。その結果、問題解決のアイデアが浮かび、目標を達成した際の満足感や充実感が高まります。だからこそ、各職員がストレスや緊張を感じず、笑顔が溢れる職場作りを目指しています。笑顔が余裕を生み、業務の大小に関わらず、仕事を終えた時に笑うことで職場の雰囲気が和やかになり、達成感や自信とやる気が引き出されると考えています。

プロフィール

福岡県出身、52歳。
H 3年4月　建設省入省　立野ダム工事事務所
H23年4月　国土交通省　水管理・国土保全局　治水課　計画係長
H26年4月　遠賀川河川事務所　調査課長
H28年4月　立野ダム工事事務所　調査設計課長
H30年4月　筑後川河川事務所　九州北部豪雨復興出張所長
R 2年4月　河川部　河川計画課　建設専門官
R 4年4月　水管理・国土保全局　河川計画課　河川計画調整室　課長補佐
R 6年4月　現職